

後 序

天 朗らかに 氣 清く澄む。時 昭和二十七年十一月十日 皇居において 皇太子明仁親王に 成年の式及び立太子の礼をとり行
わせらる。全国民は満腔の歓喜と勇躍する希望とを以て この盛儀をお迎え致しました。栄光 天に輝き 歓呼 地に湧く、皇室の弥
栄と国民の繁栄、日本の將來は豊かに祝福されています。

わが財団法人皇居外苑保存協会が このたび 皇室最近の御写真を謹集し、これを弘く同胞の間に頒たんとするは、けだし これに
よつて われらの皇室に対する親和の熱情に一層の満足を加えんと欲したがためであります。

皇居外苑とは 二重橋前広場及び皇居周辺の濠面濠側を含む三十万坪の地域であります。終戦後皇室の保有を離れて政府の管理に移
り 国民公園として一般の利用に供せられることとなりましたが 公園とはいえここは国土の象徴とも申すべき地で 皇室に対する国
民感情の如実に現われる場所であります。然るに その維持管理は国家財政の関係もあり 管理当局の熱心な努力にも拘わらず 当時
極めて不十分な状態でありました。ここにおいて この現状を傍觀し能わざる同憂の者相謀り、昭和二十五年秋 財団法人皇居外苑保
存協会を設立し、弘く国民に訴え 資金を集め 政府に協力して苑地の整備保存に微力をささげることになりました。

爾來、一定の企画の下に 管理当局と相携え 施設に清掃に 努力を傾け、広場を照らす燈火の復旧、ベンチ、水呑場、休憩設備の
新設等相当の成績を挙げてきましたが、これ皆 多数天下同憂の士の物心両面に亘る熱心な御協力のたまものであります。然しながら
更に苑路の舗装、芝生の張替え、樹木の補植、濠の浚渫、交通整理の施設等 相当巨額の工費を要する仕事をなし遂げた暁でなければ
企画の完成を期することはできないのであります。わが協会は、あくまで 目的の達成に邁進し 工を了えた各施設は逐一これを国家
に献納することにしております。

願わくは、満天下同憂の士の 奮つて われわれの業に御参加あらんことを、ここに皇室御写真集頒布の趣旨を述べると共に、皇居
外苑の一隅に 上記の目的を以て 努力を続けつつある団体のあることを 弘くお知らせする次第であります。

昭和二十七年十二月

東京都千代田区皇居外苑内

財団法人 皇居外苑保存協会

理事長 木 下 道 雄